

2024(令和 6)年度 研 究 計 画 書

部門名 ○○部門

【研究組織】(必要に応じて行を増やしてください。)

役割	氏名	所属・職名	具体的役割分担
研究代表者	日赤花子	日本赤十字看護大学	研究統括者
研究分担者	A	△△看護専門学校	データ収集・分析
研究分担者	B	△△病院	データ収集・分析
研究協力者	○○ ○○	○○○○	スーパーバイズ
協定締結企業	△△△△		○○にかかる技術提供

【研究計画】

I. 研究計画の概要		
1.	研究テーマ	看護系教育機関における防災対策上の課題に関する研究 —東日本大震災時の学生の経験から—
2.	研究概要	(10 行程度で記載してください。) 看護系大学における防災対策の検討は重要課題であり、日本看護系大学協議会においても課題となっている。そこで看護系大学における防災対策及び学生支援の対策を講じるために、東北大震災発生時に、自らも被災しながら地域住民への支援・救援活動に携わった看護学生の経験を明らかにする。 A 専門学校及び B 病院への協力依頼を行い、震災当時看護学生であった看護職、5 名程度を対象に、当時の経験に関してインタビューを行う。その結果を分析し、看護系大学における防災対策の課題や学生支援の課題を明らかにする。
3.	研究背景	(先行研究及び関連文献の検討を含めて記述してください。) 2011 年 3 月に発生した東日本大震災は日本に未曾有の被害をもたらし、地震及び津波発生による地域、病院等の減災・防災対策及び学校防災の在り方に重要な課題を残した。特に学校における体系的な防災教育の一層の推進を図るべきであることが提言された。 防災教育という観点から考えると、小中高等学校のみならず専門学校や大学等の高等教育機関における防災教育や対策も重要な課題となる。平成 26 年には、看護系大学協議会から、看護系大学における防災の在り方を検討するために防災マニュアルが整備され、看護系教育機関においても、この課題に対する意識が高まりつつある。 しかし、これまでの研究では、看護学生の防災に関する意識調査等(松

2

	<注意> 研究方法により、下記のような項目を作成し記入してください。 1) 参加者がいる研究の場合は、参加者募集方法を書く。 2) 文献収集、翻訳研究の場合は、収集・翻訳を行う計画を書く。 3) 機材開発やシステム開発研究の場合は、開発を行う計画を書く。	組織の責任者に研究メンバーから電話もしくは E-mail を用いて本研究にかかる文書を郵送してもよいからとねる。その後、郵送してもよいというお返事をいただいたのち、本研究計画書と文書（資料 1）を郵送する。その後、施設責任者に研究目的や方法等の概要を説明し研究協力を依頼する。 (2)医療機関から研究協力の承認を得た後、研究参加者を募るため、医療機関の看護組織の承諾を得て、研究参加者募集のポスターを医療機関内に掲示させて頂く。ポスターの掲示は看護部に依頼する。 (3)同時に、医療機関の看護組織の方から、研究参加者の条件を満たす該当者全員に、ポスター（資料 2-1）、インタビューガイド（資料 5）、研究参加申込書（資料 2-2）、返信用切手貼付済の封筒を渡してもらう。研究参加希望者は直接、研究参加申込書を同封の返信用封筒に入れ、郵送でしてもらう。または、共同研究者に手渡してもらう。
11.	データ収集方法 <注意> *研究方法によって異なるので、この欄は工夫して書いて下さい。	(1)半構成的インタビュー 災害発生時に看護学生であった看護職の経験进行分析するためには、災害発生時の文脈との関連で、その出来事をどのように意味づけたかに焦点をあてながら詳細なデータを収集する必要がある。そこでインタビューガイドに沿って（資料 5）、時間を設けて半構成的インタビューを行う。データは許可を得て IC レコーダーに録音する。
12.	データ分析方法 <注意> *この欄も研究方法によって異なるので、工夫して書いてください。	(1)録音内容は業者に委託し逐語録とする。逐語録におこした、当事者の体験に関するインタビューデータを深く読み込む。 (2)震災発生時から今日に至るまでの事象とその意味付けについて、その時の迷いや感情等も含めて、時間経過に即して一人ずつ分析し、個別にその特徴を分析し、個々の体験として再構成し結果を提示する。 (3)それらに基づいて、震災時に教育現場で何が起きたか、学生の視点から、その時の判断や行動の特徴、学生支援に関して必要な課題や対応について考察する。
II. 研究倫理		

日本赤十字看護大学研究倫理審査委員会により、研究倫理審査を行います。 倫理審査申請予定 9月 世界医師会の「ヘルシンキ宣言」以降の研究倫理に関する宣言、および「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針ガイダンス」「看護研究における倫理指針」「疫学研究に関する倫理指針」等の趣旨に沿って倫理的配慮を記載してください。		
1.	説明に基づく同意	(説明と同意、強制力の排除、同意撤回、代諾、アセント、オプトアウト) *代諾：本人の代理として同意・承諾の手続をすること *アセント：研究協力者が未成年の場合、対象者に分かりやすい言葉で十分説明し理解が得られるようにすること *オプトアウト：研究対象者に一人ずつ同意を得る代わりに、研究概要などの情報を通知あるいは公開し、研究の実施継続に関して、対象者が拒否できる機会を保障すること (1)研究依頼施設に対しては、郵送した本研究計画書と文書(資料1)を用いて電話により、施設管理者に説明を行い、同意を得る。さらに、研究参加者に対しては、文書および口頭で、研究目的や方法、研究成果の公表、協力への依頼及び辞退は任意であることなどについて文書を用いて説明して承諾を得る。一度同意した後に同意を撤回する場合には、同意撤回書への記入および同封した封書での返送を依頼する。
2.	個人情報・プライバシー保護	(個人情報・要配慮個人情報の有無、プライバシー保護、匿名化、データ保管と破棄、収集したデータの二次利用の可能性) (1) 研究参加者および組織の匿名性を保持する。インタビューで語られる教員や学生の個人情報についても匿名化し、個人が特定されないよう慎重に取り扱う。研究参加者や組織など個人あるいは組織が特定される情報は一切排除し、ID 番号や記号化して置き換え使用する。連結した情報に関しては●○に保管し、個人情報の保護につとめ、研究終了後にはシュレッダーにかけて破棄する。 (2) 研究データを閲覧できるのは、研究組織のメンバーのみである。 (3) 研究データは○○に保管するとともに、研究終了後 10 年間保管のち、破棄をする。 (4) 録音データの逐語録作成は業者に委託するが、プライバシーポリシーの公表をしている等の業者に委託するとともに契約書を交わす。
3.	安全と危険 利益と負担	該当する□に✓を記入してください。 介入・調査の侵襲性 □あり(□軽微な侵襲 □軽微を超える侵襲) ☒なし 薬剤または医療機器の使用 □あり ☒なし

		遺伝子解析 ☐ あり ☒ なし 危険/負担とそれらに対する配慮・措置：(介入による負担の他、研究参加のための時間や費用の負担を含む) ・本研究への参加により審査当時の記憶がよみがえったり、またインタビュー後に思い起こされ、心理的負担を生じる可能性がある。また勤務している看護職であるため、勤務との兼ね合いで時間的負担を生じることが想定される。 これらに対しては、インタビュー途中であっても表情や口調等からインタビューを継続することが困難な状況と考えられる際には、途中でであっても中断もしくは中止する。またインタビュー終了後日にちが経過してからも不調が生じた際には院内のカウンセラーにつなぐなど適切な対応をとる。 安全/利益：。当時の体験を語っていただくことで学生支援に関して必要な課題や対応を検討することに貢献することができる。
	補償	補償措置 ☐ あり (具体的に記入してください。) ☒ なし
4.	報告・相談体制	(研究計画変更、有害事象等の発生、研究の中止、終了等の報告等) (参加者からの問い合わせ先窓口と具体的対応等) 研究代表者 日赤花子 メールアドレス、hanako@redcross.ac.jp
5.	利益相反	☐ あり (具体的に記入してください。) ☒ なし
III. その他		
1.	他の研究費 併願申請状況	該当する ☐ に ☒ を記入してください。 ☐ 科研費 (文部科学省-日本学術振興会科研費 JSPS) ☐ 日本赤十字学園 ☐ その他 (具体的に記入してください。) ☒ なし
2.	研究結果の還元	☒ 学会発表 (具体的学会、予定時期を明記してください。) 日本赤十字看護学会総会、202〇年7月 ☐ 論文発表 (具体的学会、予定時期を記入してください。) ☐ HP公表

【研究計画書 (様式1) に添付する資料】 (該当する☐に☒を記入してください。)

倫理教育受講証	☒ 別添
同意説明文等	☒ 説明文 ☒ 同意書 ☒ 同意撤回書

様式 1 モデル 1 (インタビュー調査例)

附属災害救護研究所

	参考資料	☒ (施設への協力依頼書、参加手順書、アンケート用紙、インタビューガイド、ポスター等)
	その他	☐ (他施設の倫理審査承認書等)